

これはアストラゼネカ英国本社が2005年7月28日に発信したプレスリリースの日本語訳です。  
日本で未発売の製品については英語標記のままとします。

## AstraZeneca PLC 2005年第2四半期・上半期業績

「上半期売上高、利益とも過去最高： 年間目標を上方修正」

### ファイナンシャルハイライト

グループ	第2四半期	第2四半期	前年 同期比 %	恒常 為替 %	上半期	上半期	前年 同期比 %	恒常 為替 %
	2005 100万ドル	2004 100万ドル			2005 \$m	2004 \$m		
売上高	6,132	5,288	+16	+13	11,875	10,362	+15	+12
営業利益	1,718	1,052	+63	+53	3,171	2,104	+51	+44
税引前利益	1,749	1,046	+67	+55	3,235	2,130	+52	+45
1株当たり利益	\$0.75	\$0.48	+55	+40	\$1.38	\$0.95	+45	+37

伸び率は恒常為替レート(CER)ベース

- 第2四半期の業績は非常に好調で、売上高は13%増、営業利益は53%増でした。
- 上半期の売上高は、主な成長製品（25%増）に牽引され、過去最高の118億7,500万ドル（12%増）でした。
- 上半期の営業利益は44%増、営業利益率は、良好なコスト管理と生産性改善により、26.7%に伸長しました。
- 上半期のフリーキャッシュフローは28億5,500万ドル。株の買い戻し額は上半期末時点で総額11億8,200万ドル。年末時点での目標買い戻し額は約30億ドルです。
- 取締役会は、第1回中間配当を29%引き上げ0.38ドルとすることを勧告しました。
- Nexium™ の上半期の売り上げは22%増の22億5,900万ドルでした。
- クレストールの上半期の売り上げは72%増の5億9,000万ドル。7月15日終了週においてクレストールの米国スタチンマーケットの新規処方シェアは6.2%でした。
- セロクエルの上半期の売り上げは37%増の13億ドル。
- Symbicort™ の上半期の売り上げは21%増の5億200万ドル。米国での承認申請は9月末に行われることが確定しました。
- アリミデックスの上半期の売り上げは50%増の5億5,300万ドル。過去12ヶ月間の売り上げは10億700万ドルに到達しました。
- 当社は通年の1株当たり利益を2.75ドル超と予測しています。

最高経営責任者トム・マキロップ卿は次のように述べました：「堅調な売り上げ増と生産性向上により上半期は抜群の業績を達成したため、株主への還元および通年の財務目標を引き上げました。」

2005年7月28日 ロンドン発

Interviews with Senior Executives will be available in video, audio and text on: [www.astrazeneca.com](http://www.astrazeneca.com) or [www.cantos.com](http://www.cantos.com). Pictures are available on [www.newscast.co.uk](http://www.newscast.co.uk). Broadcast footage of AstraZeneca products and activities is available on [www.thenewsmarket.com](http://www.thenewsmarket.com)

Media Enquiries:	Steve Brown/Edel McCaffrey (London)	(020) 7304 5033/5034
	Staffan Ternby (Södertälje)	(8) 553 26107
	Rachel Bloom (Wilmington)	(302) 886 7858
Analyst/Investor Enquiries:	Mina Blair/Jonathan Hunt (London)	(020) 7304 5084/5087
	Staffan Ternby (Södertälje)	(8) 553 26107
	Ed Seage/Jörgen Winroth (USA)	(302) 886 4065/(212) 579 0506

## ビジネスハイライト 伸び率は恒常為替レート (CER)

### 第2四半期

第2四半期の売り上げは恒常為替レートベースで13%増、報告ベース (為替のプラス影響3%を含む) で16%増でした。米国の売り上げは20%増でした。好調な売上増 (8%増) はその他のマーケットでも達成されました; 欧州の売り上げは8%増、アジア太平洋地域の売り上げは10%増でした。主な成長製品の世界の売り上げは28%増でした。

研究開発費および販売・一般管理費は合計で2004年第2四半期を3%下回りました (報告ベースでは1%上回りました)。経費減と売り上げの大幅増により、営業利益は53%増加しました。第2四半期の1株当たり利益は、2004年度の0.48ドルに対し、2005年度は0.75ドルと40%増でした。

Nexium™ の第2四半期の売り上げは33%増の12億400万ドルでした。米国の売り上げは、調剤錠剤数の大幅な増加 (17%増) および昨年第2四半期の在庫減少により、2004年第2四半期に対し35%増でした。米国以外の市場の売り上げは28%増でした。

クレストールの第2四半期の売り上げは3億1,700万ドルでした。米国の売り上げは63%増の1億8,400万ドルでした。米国スタチン市場における新規処方薬のクレストールのシェアは7月15日終了週で6.2%でした。米国以外の市場においては、売り上げは34%増でしたが、特にフランスとイタリアが好調でした。

イレッサの第2四半期の売り上げは5,900万ドルでしたが、アジア太平洋地域における売り上げは4,700万ドルでした。米国での売り上げは86%減でした。アリミデックスは、引き続き、乳がん治療薬としてアロマターゼ阻害剤のマーケットリーダーの地位をベースに伸長しつつあります。アリミデックスの第2四半期の売り上げは51%増、過去12ヶ月の売り上げは10億700万ドルに達しました。

Symbicort™ の第2四半期の売り上げは17%増の2億5,500万ドルでした。セロクエルの売り上げは、米国 (34%増) ならびにその他市場 (37%増) の堅調な伸びにより、6億6,700万ドルでした。

### 上半期

上半期の売り上げは、恒常為替レートベースで12%増、為替のプラス影響3%を含む報告ベースでは15%増でした。米国の売り上げは15%増、その他の市場における売り上げは8%増でした。主な成長製品の上半期の売り上げは、Nexium™ (22%増)、セロクエル (37%増)、クレストール (72%増)、アリミデックス (50%増)、Symbicort™ (21%増) の堅調な業績により、25%増でした。

売り上げが堅調に伸び、研究開発費および販売費・一般管理費が減少した結果 (合計、恒常為替レートベースで3%減)、上半期の営業利益は44%増加しました。1株当たり利益は、昨年の0.95ドルに対し、1.38ドルでした。

### 今後の見通し

第1および第2四半期に達成した堅調な売り上げと素晴らしい生産性向上に基づき、当社は、年初に設定した収益目標 (ガイダンス) を上回ると予想しています。通年ベースで、売り上げは恒常為替レートベースで二桁成長、1株当たり利益は2.75ドル超、すなわち、営業利益率は約27%を予想しています。この業績が達成できれば、今後2年間の良好な利益成長の基盤が構築されることとなります。

*注意: 当社の利益やビジネスの見通しに対する上記の予測的な記述はリスクや不確定要素をともなっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、米国におけるオメプラゾールの後発品の売上伸び率、既存製品の継続的成長 (特に、クレストール、Nexium™、セロクエル、Symbicort™、アリミデックス、カソデックス)、コストや経費の増加、利率の動き、為替レートの変動、税率などがリスクや不確定要素です。これらやその他のリスクや不確定要素については、2004年アニュアルレポートForm20-Fを含む証券取引委員会への有価証券報告書をご覧ください。*

## 売上高

単位は100万ドル

伸び率は恒常為替レート (CER)

### 消化器

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2005	2004		2005	2004	
Losec™/Prilosec™ (オメプラール)	438	531	-21	865	1,071	-22
Nexium™	1,204	891	+33	2,259	1,826	+22
合計	1,661	1,439	+13	3,160	2,935	+5

- Nexium™ の米国での第2四半期の売り上げは対前年度比35%増でした。調剤錠剤数は17%増で、米国PPI（プロトンポンプ阻害剤）市場を大きく上回りました。価格の影響はありませんでした。報告ベースの売り上げ成長率は、昨年卸在庫減および良好なmanaged careの調整により、マイナスの影響を受けました。米国PPI市場の総処方数のNexium™ のシェアは、2004年12月から1.6ポイント増の28.5%でした。Nexium™ は昨年末からマーケットシェアを伸ばした唯一の主力PPIです。
- Nexium™ の米国での上半期の売り上げは18%増、数量ベースでは16%増でした。
- Nexium™ の米国以外の市場における売り上げは、第2四半期、上半期とも28%増でした。
- Prilosec™（オメプラール）の米国での売り上げは、第2四半期は38%減、上半期は37%減でした。
- 米国以外の市場においてLosec™（オメプラール）の第2四半期の売り上げは16%減でした。一方、日本の売り上げは23%増、中国の売り上げは28%増でした。

### 循環器

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2005	2004		2005	2004	
Seloken™/Toprol-XL™ (セロケン)	435	320	+34	843	653	+27
Atacand™	254	216	+13	489	425	+10
Plendil™ (スプレンジール)	112	148	-26	205	259	-23
Zestril™ (ゼストリル)	78	117	-36	165	222	-30
クレストール	317	207	+50	590	336	+72
合計	1,370	1,193	+12	2,627	2,248	+14

- Toprol-XL™の米国の売り上げは 第2四半期で47%増、上半期で35%増でした。双方の時期において、2004年の卸在庫減の影響を受け、報告ベースの売り上げ成長率は約30%の推定需要増を上回りました。
- セロケンの米国以外の市場における売り上げは、第2四半期で7%増、上半期で10%増でした。
- Atacand™ の米国の売り上げは第2四半期で16%増、上半期で2%減でした。米国の上半期の総処方数は8%減でした。5月19日に当社は米国FDAよりAtacand™ の効能追加が承認されたことを発表しました。承認された新たな適応症は、左心室機能不全で慢性心不全患者の心血管系疾患に起因する死亡率および心不全症状の悪化による入院回数の低下を目的とする治療です。Atacand™ は、ACE阻害剤の併用の有無にかかわらず、これらのベネフィットを提供する最初のアンジオテンシンII受容体阻害剤 (ARB) であり、また、ACE阻害剤および 遮断剤との併用効果が確認されている唯一のARBです。
- Atacand™ の米国以外の市場における売り上げは、第2四半期で11%増、上半期で15%増でした。

- クレストールの上半期の売り上げは5億9,000万ドルで、過去12ヶ月間の売り上げは11億6,200万ドルでした。上市以降、世界で投与患者数は500万人、処方箋枚数は2,700万枚を超えます。
- 米国でのクレストールの第2四半期の売り上げは63%増の1億8,400万ドルでした。上半期の売り上げは83%増の3億3,800万ドルでした。7月15日終了週、米国スタチン市場における新規処方のクレストールのシェアは6.2%でした。ダイナミックマーケット（新規、切り替え）のシェアは7.6%でした。
- 米国以外の市場においては、引き続き欧州が好調で、クレストールの第2四半期の売り上げは34%増の1億3,300万ドルでした。スタチン市場の数量ベースでのシェアは、カナダ（12.3%）、オランダ（10.5%）、最近ではイタリア（10.9%）において二桁に達しました。フランスのマーケットシェアは、第1四半期から1ポイント増の5.4%でした。
- スプレンジールの上半期の売り上げは、2004年11月の米国市場でのフェロジピン後発品参入に影響され、23%減でした。米国のスプレンジールの上半期の売り上げは42%減でした。

## 呼吸器

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2005	2004		2005	2004	
Symbicort™	255	205	+17	502	393	+21
パルミコート	276	244	+11	590	526	+9
Rhinocort™	112	100	+10	204	181	+11
アコレート	13	23	-47	41	53	-25
Oxis™	23	26	-16	46	51	-16
合計	718	639	+8	1,464	1,287	+10

- Symbicort™ の上半期の売り上げは21%増の5億200万ドルでした。これは、年間30億ドル近い米国以外の喘息、慢性閉塞性肺疾患（CPPD）治療薬の用量固定の配合剤市場において引き続きシェアを拡大したためです。
- Symbicort™ の米国における承認申請は予定通り2005年9月末までに行われる見通しです。
- 5月にSymbicort™の維持およびリリーバー療法（以前はSingle Inhaler Therapy）により、フルチカゾン・サルメテロールと比較して、重篤な喘息発作のリスクが25%低減されること（第1次評価項目）および重篤な喘息発作の全数が22%低減されることを示すCOSMOS試験の結果が、第101回米国胸部学会国際会議で発表されました。COSMOS試験の結果は、シンビコート維持・リリーバー療法の欧州における承認申請に追加される予定であり、再申請は2005年中に行われる予定です。
- パルミコートの上半期の売り上げが伸びたのは、米国におけるPulmicort™ Respules™ の堅調な売上増（31%増）がパルミコートタービュヘイラーの世界的な売り上げ減を上回ったためです。
- Rhinocort™ Aqua の米国の上半期の売り上げは、総処方件数のわずかな減少を上回る在庫変動とマネジドケアの調整によるプラスの影響があり、26%増でした。

## オンコロジー

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2005	2004		2005	2004	
カゾデックス	287	249	+12	564	478	+14
ゾラデックス	263	226	+12	494	439	+8
アリミデックス	297	191	+51	553	357	+50
イレッサ	59	103	-44	140	196	-31
Faslodex™	35	23	+52	64	49	+29
ノルバデックス	32	38	-19	60	69	-16
合計	976	834	+14	1,881	1,596	+14

- カゾデックスの米国の売り上げは、在庫変動と価格の影響で、第2四半期、上半期とも10%増でした。上半期の総処方件数は2%減でした。
- カゾデックスの米国以外の売り上げは、主に日本の売上増（上半期19%増）により、第2四半期で13%増、上半期で15%増でした。
- アリミデックスの米国の売り上げは、在庫変動と価格が上半期の総処方件数の42%増にさらなるプラス影響を与え、第2四半期で79%増、上半期で72%増でした。米国では、乳がんのホルモン治療剤の新規処方におけるアリミデックスのシェアが6月に32%に達し、昨年末からほぼ3ポイント上昇しました。
- アリミデックスの米国以外の上半期の売り上げは、欧州（38%増）と日本（36%増）の良好な売上増により、38%増でした。
- 6月28日に当社はアリミデックスの新規適応症（ホルモン受容体陽性の閉経後早期浸潤性乳がん患者の術後補助療法）が英国医薬品医療製品規制庁（MHRA）により承認されたと発表しました。その後、欧州相互認証手続きに基づき、さらに5カ国（オーストリア、ドイツ、イタリア、ポルトガル、スペイン）で承認を取得しました。
- イレッサの第2四半期の売り上げ5,900万ドルにはアジア太平洋地域の売り上げ4,700万ドル（5%増）が含まれます。日本の売り上げは昨年第2四半期を17%下回りました。
- 米国におけるイレッサの第2四半期の売り上げは前年比86%減の700万ドルでした。6月17日に当社は米国の添付文書を改訂することを発表しました。改訂後の添付文書には、イレッサは既に本剤の投与をうけている患者で、本剤によりベネフィットを受けているか受けたことがある患者のみに使用すると記載されています。この改訂にあたり、アストラゼネカ米国法人は2005年9月15日からイレッサアクセスプログラムを開始し、添付文書に規定された基準を満たす患者に対し、単一のメールオーダー薬局を通じて、新たな処方箋に対する薬剤供給を行います。
- Faslodex™ の上半期の売り上げは、昨年3月の販売承認以降の欧州での堅調な伸びにより、6,400万ドル（29%増）でした。米国の売り上げは2%増でした。

## ニューロサイエンス

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2005	2004		2005	2004	
セロクエル	667	488	+35	1,300	936	+37
ゾーミッグ	104	91	+12	172	186	-11
合計	1,022	866	+16	1,974	1,678	+15

- セロクエルの第2四半期の売り上げは35%増の6億6,700万ドルでした。これには米国（34%増）と特にドイツをはじめとする欧州（62%増）における好調な売上が寄与しています。
- セロクエルの米国の第2四半期および上半期の売り上げは34%増でしたが、これは、約30%の上半期の推定実質売り上げ増と概ね一致しています。6月には、米国の新規処方マーケットシェアは28.7%で、最も近い競合メーカーに3.8ポイントの差をつけています。
- セロクエルの米国以外の市場における上半期の売り上げは44%増でした。これには欧州（59%増）とカナダ（27%増）における好調な売上が寄与しています。
- ゾーミッグの米国の第2四半期の売り上げは、4月1日に米国の営業活動をアストラゼネカが全面的に再開したことをうけ、4,600万ドル（2005年第1四半期の売り上げは900万ドル）でした。
- ゾーミッグの米国以外の市場における売り上げは、第2四半期で3%増、上半期で8%増でした。

## 地域別売上高

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2005	2004		2005	2004	
米国	2,743	2,288	+20	5,243	4,567	+15
欧州	2,197	1,928	+8	4,362	3,803	+8
日本	399	376	+6	736	666	+9
その他	793	696	+9	1,534	1,326	+10

- 米国の第2四半期の売り上げは、特許切れ製品ならびにイレッサの売上減の影響を上回るNexium™、セロクエル、Toprol-XL™、クレストールおよびアリミデックスの堅調な業績に牽引されました。
- 欧州の第2四半期の売上増は、Nexium™（27%増）、オンコロジー製品（22%増）、セロクエル（62%増）、Symbicort™（12%増）およびクレストール（32%増）により推進されました。
- 日本の第2四半期の売り上げは、オメプラール（23%増）、ゾラデックス（17%増）、カソデックス（18%増）、アリミデックス（33%増）の堅調な売上増を反映しています。
- 中国の上半期の売り上げは、 Losec™（オメプラール）や麻酔製品の堅調な売上増ならびにイレッサの上市をうけ、38%増の1億3,500万ドルでした。

## 財務レビュー

伸び率は恒常為替レート (CER)

### 第2四半期

報告ベースで売上高は16%増、営業利益は63%増でした。恒常為替レートベースで、売上高は13%増、営業利益は53%増でした。

報告ベースでの米国の第2四半期の売上高は20%増でしたが、在庫調整後および四半期毎のマネジドケア未収分調整後、実質成長率は17%増でした。過去6ヶ月間の米国の実質成長率は、個々の製品レベルでは変動がありましたが、報告ベースの成長率とほぼ同じでした。現在までに、殆どの米卸業者と出来高払いのサービス契約を締結しました。

為替は、報告ベースで、売りに3%、営業利益に10%のプラス影響を与えました。昨年の第2四半期と比べて、米ドルはユーロに対し4%安となり、売りにプラス影響を与えました。一方、米ドルはスウェーデンクローナ(4%)や英ポンド(3%)に対しても安く、コスト高の要因となりました。全体として、為替の変動ならびにヘッジにより利益を得たことで、第2四半期の1株あたり利益は6セント増加しました。

報告ベースの営業利益率は19.9%から8.1ポイント上昇し28.0%でした。為替により1.0ポイントのプラス影響を受けたため、実質的な改善率は7.1ポイントでした。

売上総利益率は2.3ポイント増の78.6%でした。為替により1.3ポイントのプラス影響を受けました。メルク社に対する支払い比率は売りの5.0%であり、昨年第2四半期よりも0.2ポイント上回ったため、実質改善率は製品構成の改善および進行中の業務効率の改善により、1.2ポイントでした。

研究開発費と販売・一般管理費の総費用は30億8,900万ドルで、継続的かつ全社的な厳しい経費管理と生産性向上により昨年に比べ3%減でした。昨年第2四半期に比べ、研究開発費と販売・一般管理費合計の減少は営業利益率の改善に7.9ポイント貢献しました。研究開発費は9%減でしたが、比較的支出の多かった前年同期と比較したこと、また、外部の件費や委託研究機関のコストが減少したことが寄与しました。販売・一般管理費の伸びは、製品の上市コストがピークを超え、販売促進費が減少したため、前年比ほぼ同レベルに抑えられました。販売・一般管理費は、Losec™(オメプラール)に関し独占的立場を乱用したとされ欧州委員会により課せられた制裁金7,500万ドルを含みます。なお、本件については控訴する予定です。

その他収入の減少は営業利益率に対し1.8ポイントのマイナス影響を与えましたが、この減少は主に昨年発生したDurascan事業の売却益によるものです。

金融商品に関する公正価格調整として第2四半期に200万ドルが計上されましたが、600万ドルは売上原価の減少として、700万ドルは支払い利息の増加として、また300万ドルは研究開発費の減少として計上されました。

### 上半期

報告ベースの売上高は15%増、営業利益は51%増でした。恒常為替レートベースによる売上高は12%増、営業利益は44%増でした。

報告ベースで、為替は売上高に3%、営業利益に7%プラス影響を与えました。しかし、最近の米ドル高の傾向にあり、現行の為替レートは、上半期の1株当たり利益に対する7セントのプラス影響のうち約半分が下半期には逆転する可能性を示唆しています。

営業利益率は20.3%から6.4ポイント増の26.7%でした。為替によるプラス影響が0.4ポイントあったため、上半期の営業利益率の実質的な改善は6ポイントでした。

売上総利益率は0.3ポイント増の77.1%でした。メルク社に対する支払い比率の低下(売上比4.7%に低下)と為替は売上総利益率に対しそれぞれ0.1%と0.7%のプラス影響を与えました。その結果、0.5%の実質的な売上総利益率の低下は、殆どが、外国為替契約に関する公正価格調整と第1四半期の米国でのMedpointe社とのゾーミック販売契約の終了によるものです。

累計で、研究開発費および販売・一般管理費は前年同期比で3%減でした(実質1%増)。研究開発費および販売・一般管理費の総額における減少は、営業利益率に対し7.3ポイントのプラス影響を与えました。内訳は、研

究開発費から2.7ポイント、販売・一般管理費から4.6ポイントです。

その他収入の減少は営業利益率に対し0.9ポイントのマイナス影響を与えましたが、この減少は主に昨年上半期に発生したDurascan事業の売却益によるものです。

金融商品に関する公正価格調整として上半期に4,300万ドルが計上されましたが、1,700万ドルは売上原価として、700万ドルは支払い利息として、1,900万ドルは研究開発費として計上されました。

## 利息および配当収入

上半期の正味利息・配当収入は6,400万ドル（2004年は2,600万ドル）で、第2四半期は3,100万ドル（2004年はマイナス600万ドル）でした。昨年第2四半期に対する増加は、主に、平均投資残高と利回りが昨年を上回ったことが原因です。報告された金額はIAS（国際会計基準）19号で要求された従業員給付基金の資産・負債によりもたらされた正味利息収入としての上半期の1,100万ドルと第2四半期の600万ドルを含んでいます。また併せて保有社債の公正価格調整や金利スワップ取引に関わる上半期かつ第2四半期発生分の700万ドルも含んでいます。

## 税金

上半期の実効税率は、2004年の24.2%に対し2005年は29.9%でした。この税率の上昇は、利益の地域別分布とLosec™（オメプラール）に関する罰金に救済がないことによるものです。また、2004年は関連税務当局との合意による繰越利益に関する繰延税金負債の一時的な減額によるプラス影響がありました。通年の税率は約29%と予想されます。

## キャッシュフロー

営業活動によるキャッシュフローは32億ドルで、2004年上半期より15億ドル増加しました。この増加は主に営業利益の増加と1億3,100万ドルの運転資本の減少によるものですが、納税額が8億1,000万ドルに増加したことにより一部相殺されました。

上半期の投資活動による現金収入は4億7,700万ドルでしたが、2004年上半期は現金支出7,800万ドルでした。この変化は、主に、預金資金の短期的管理の結果であり、2005年上半期の現金収入は7億7,600万ドル、2004年上半期の現金収入は4億4,300万ドルでした。土地、工場および設備への支出は1億7,200万ドル減少し4億1,100万ドルでした。

当期のフリーキャッシュフロー（財務活動を控除前の正味キャッシュフロー、すなわち、短期的な資金管理の効果は除外される）は、16億9,300万ドル増の28億5,500万ドルでした。株式の買戻しで正味11億4,800万ドルの支出、10億7,900万ドルの株主に対する配当の支払い、および外国為替の影響を控除後、現金・現金同等物は13億8,600万ドル増加しました。

2005年6月30日現在の正味キャッシュファンドは、2004年12月31日に比べ5億7,100万ドル増加し、45億3,600万ドルでした。

## 配当

取締役会は、第1回中間配当金として、29%増の0.38ドル（21.9ペンス、2.99スウェーデンクローナ）を2005年8月12日時点の株主に対し、2005年9月19日に支払うことを勧告しました。

## 株の買い戻しプログラム

第2四半期中に総額7億100万ドルで普通株式1,660万株が買い戻され消却されました。これにより、上半期に買い戻された株は、総額11億8,200万ドルで2,850万株になりました。既報のとおり、フリーキャッシュフローは完全に配分されることが意図されています。現在、通年の株の買い戻しは約30億ドルに増加されることが予想されています。



2005年6月30日現在、発行株式は16億1,700万株です。

## 最新の開発品リスト

---

最新の開発品リストは、当社のウェブサイトにある投資家情報にアクセスしてご覧ください。

[www.astrazeneca.com](http://www.astrazeneca.com)

すでに終了した臨床試験の結果の概要は当社のウェブサイトに掲載されております。また、情報開示に関する国際的な医薬品業界の見解に準拠し、現在進行中および新たに開始する仮説検証のための臨床試験の詳細もこのウェブサイト上でアクセスしてご覧いただくことができます。[www.astrazenecaclinicaltrials.com](http://www.astrazenecaclinicaltrials.com)

主なパイプラインに関するニュースには、9月に予定されている喘息の適応症でのSymbicort™ pMDIに関する米国での承認申請を行うことの確認、セロクエルの双極性うつ病の申請目標時期が本年度末を目途に前倒しされたこと、固形がん治療薬、Zactima™ (AZD6474)の第III相への移行が含まれています。Zactima™ がRET遺伝子変異に対する作用を有することが前臨床で確認されていましたが、最近、RET遺伝子変異が関与する希少疾患の甲状腺髄様がんと同剤が臨床効果を示すことが確認されました。

Cerovive™ (脳卒中)の承認申請を2007年に移行することが決定されました。これは、主要なSAINT II試験の規模を拡大することを可能にするためです。AZD0865 (酸関連疾患)とAZD8129 (うつ病/不安)については、第II相のデータを検討した結果、開発を中止しました。抗不整脈薬AZD7009の注射剤の第II相プログラムは継続していますが、経口剤の試験は、第II相試験で見られた心関連以外の副作用の検討結果がでるまで中止されています。

その他の変更は開発品リストに示されています。

### カレンダー

2005年9月8日	Jan Lundbergによる創薬研究プレゼンテーション (ロンドン)
2005年10月27日	第3四半期・9ヶ月間累計業績発表
2005年第4四半期 (日程未定)	メルク社への支払いについての教育セミナー
2006年2月2日	2005年第4四半期・通年業績発表

トム・マキロップ卿  
最高経営責任者